

令和8年度 校内研修について

研修担当

1 研究教科【国語・DX(生成 AI 活用)】

2 研究主題・仮説

国語科における読む力を向上させるための自己調整学習の取り入れ方

～生成 AI を活用した授業デザインと、DX・音読による「読みの深化」の追究～

《研究仮説》

1 生成 AI を授業デザインに効果的に取り入れ、児童が見通しをもって学習に向かう場を設定すれば、自己調整が促され、主体的な読み手としての力が育つであろう。

(生成 AI+自己調整学習=主体的な読み手)

2 DX ツールを用いて多様な視点から考えを広げ、音読等の言語活動を適切に位置づけ

研究主題設定の理由は以下の通りである。

(1) 本校の学校教育目標から

本校の学校教育目標は以下の通りである。

学びを生かし、豊かな心とたくましく生きる力を備えた子どもの育成

また、「目指す児童像」のうち、「かしこい子」として以下の3点を掲げている。

- 問題を見つけ、進んで調べる子ども
- 人の話をよく聞いて、考え創造する子ども
- 学んだことを生活に生かそうとする子ども

さらに、「学校経営の重点」においては、以下の指導の充実を図ることとしている。

(2) 学習指導・道徳指導の充実

- ①学習形態や発問、評価等の工夫により、児童の学習への意欲を高め、基礎的・基本的な学習を定着させるとともに思考力や判断力、表現力を高める。
- ②読み聞かせや調べ学習等の活動を充実させ、読書に親しむ態度を育成し、活字離れを防ぐ。
- ③音読を効果的に取り入れて、「教科書の内容が理解できる」指導に努める。
- ④国語科研修を活かし、文章の内容を読み取る力を伸ばすように努める。
- ⑤体験的な学習、問題解決的な学習を重視し、生徒指導の機能を生かした授業の実践に努め

る。

- ⑥各教科等において、授業のユニバーサルデザインを推進するとともに、児童一人一人のニーズに対応した指導に努める。
- ⑦「英語科」について、コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を育成し、国際化に対応できる人材の育成に努める。
- ⑧主体的・対話的で深い学びの視点からの ICT 活用を推進するとともに、デジタル・シティズンシップ教育を通して、優れたデジタル市民の育成に努める。
- ⑨特別の教科である道徳について「考え、議論する道徳」を意識した指導法の工夫改善を図り、道徳教育の充実に努める。また、家庭・地域社会との連携を大切に道徳教育の実践に努める。

(3) 生徒指導の充実

- ①生徒指導の機能を生かした「わかる授業」の展開に努め、自己存在感を高め、自己決定の場をつくり、共感的な人間関係の育成に努める。

(4) 健康・安全教育の充実

- ④情報モラルや情報セキュリティを意識した、デジタル・シティズンシップ教育の推進に努める。

上記のように挙げられている。

DX(1人1台端末や生成 AI)を活用して児童の「自己調整学習」を引き出し、音読を重視した国語科の学習を通して「読みの深化」を追究していくことは、まさに今年度の学校経営の重点の具現化に直結するものである。これらの理由から、本研究主題を設定した。

(2) 印西市教育委員会の DX に関する計画から

印西市教育委員会が策定した「印西市教育 DX 推進計画」では、教育 DX 推進の原則の一つとして「ICT を活用し、校務プロセスの見直しを行うとともに、創造的な学びの実現を目指す」ことが掲げられている。

また、目指す姿の実現に向けた視点である「学びの変革」においては、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」が施策として示されている。具体的には、ICT を最大限活用し自ら学習を調整する「自己調整学習」を促すような授業をデザインすることで、子どもが能動的に学習に取り組み、主体的・対話的で深い学びを実現することが求められている。さらに、先進的な情報教育の推進として、生成 AI などの高度技術を単なる解答ツールではなく「思考を広げるパートナー」として位置づけ、課題解決に取り組む方針も示されている。

(3) 第4期千葉県教育振興基本計画から

千葉県教育委員会が策定した「第4期千葉県教育振興基本計画」では、不確実な状況にも対応できる思考力・判断力・表現力や、学びに向かう意欲を育む「確かな学力の育成」を目指している。具体的には、デジタル機

器を日常的に活用し、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図ることが示されている。また、未来につながる確かな学力を育むため、児童自身が学び方を学び、自らの課題を把握して目標に向け努力する「自己調整力を高める」ための効果的な学習活動の支援が重要視されている。さらに、同計画の「『読書県ちば』の推進」においては、児童が読書に親しみながら成長していくことを目指し、「朝読書や音読、調べ学習等の推進」が明記されている。加えて、「ICT 利活用の日常化」として、Ｉ人Ｉ台端末を新たな学びのツールとして活用し、授業の再構築を図ることも求められている。

(4) 小学校学習指導要領から

小学校学習指導要領の国語科の目標には、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育成することが掲げられている。また、急速に情報化が進展する社会において、「文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である」と指摘されている。さらに、音読については、「Ｃ読むこと」などの指導事項と適切に関連付けて指導することが重要であると示されている。

本校において、文章の構造や論理を意識した音読を取り入れ、DX や生成 AI を活用して思考を可視化・共有しながら「読みの深化」を追究していくことは、まさに学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に直結するものである。これらの活動を通して、児童が目的意識をもって文章に向かい合う「自己調整学習」のサイクルを構築し、確かな「読む力」を育成していく必要がある。

(5) 生成 AI パイロット校の指定から

本校が属する原山中学校区は、今年度生成 AI パイロット校に指定されており、効果的な教育実践を創出し、市内全体での生成 AI 活用の促進に貢献することが求められている。

また、国の「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」においては、学習場面で生成 AI を利用する際、出力をそのまま使うのではなく、出力を吟味させ、資質・能力の育成につなげる場面を設けることが重要であると示されている。

本研究において、国語科の学習に生成 AI を効果的に取り入れ、児童が多様な考えに触れながら「読みの深化」を追究していくことは、まさに生成 AI パイロット校として求められる「効果的な教育実践の創出」に応えるものである。生成 AI を活用した授業デザインを通して自己調整学習を引き出していくことで、これからの時代に求められる新たな学びのモデルを構築していく。

以上の通り、本校における研究の方向性は、学校教育目標(1)の具現化であり、市・県・国が目指す教育 DX や新学習指導要領の理念(2～4)と合致するものである。同時に、生成 AI パイロット校として次世代の学びを先導する使命(5)も帯びている。

こうした背景を踏まえ、本研究における国語科の授業改善の取り組みは、児童の「読む力」を向上させ、主体的

な学び手へと導くものとする。これらの理由から、本研究主題を設定した。